

平成23年度事後評価結果(平成24年3月)

[研究開発課題名] 非圧縮HD映像のIP伝送国際標準方式の開発とIPv6実環境評価の研究開発

[委託機関名] 株式会社メディアグローバルリンクス

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>本件は、技術的にリスクの非常に高い技術開発を行うものではなく、既知の技術のIPv6上での映像伝送への利用に適合するようにパケットフォーマットやFECのパラメータを設定し、その実装を行うという比較的成果の見通しが立ちやすい技術開発である。そのため、得られた技術成果の革新性には欠けるが、その分手堅く誠実に研究開発を行ってきており、また製品化に結び付けたことは高く評価出来る。研究開発に関する成果に留まらず、「SMPTE2022-5/6に準拠したIPネットワーク伝送装置の先行開発」、「無瞬断切替機能の開発」に関して、デファクト型ではあるが、国際標準化にも成功している点は高く評価される。</p> <p>しかしながら、知的財産の形成という点では不十分である。また技術の製品化に当たってFPGAを用いていることもあり、競合他社が類似製品の開発を行うことは比較的容易であることが懸念材料となる。</p>
		<p>(事業化関係)</p> <p>製品開発では、世界的な放送用映像ネットワークのIP化のニーズと高い品質が求められる放送局間伝送とスポーツ中継のようなリアルタイム伝送に有効な非圧縮HD伝送のニーズに応える伝送装置を、いち早く標準仕様(SMPTE2022-5/6)に準拠して事業化することを狙いとされている。受託者は、欧米豪の主要な放送ネットワーク用の伝送装置において販売実績をもつ。</p> <p>委託研究期間中に、既存製品のMD8000に開発製品(基板)を組み込むための製品化が完了しており、従来からの製造委託業者の実績も問題ないため、開発製品の製造はスムーズに行える。また、既存製品MD8000などの販売実績があり、開発と営業などの事業化体制も問題ないため、開発製品は既存製品と同様の販売数量は期待できる。</p> <p>しかし、提案製品の開発対象は、標準方式のサポートが中心で、機能・性能面については特段の向上は行われていない。また、標準仕様についてもIPのパケットフォーマットとFECだけで、今後、使用が増加すると予想されるIPv6の標準仕様もサポートされていない。このため、既存製品に比べ、大きく販売が伸びる要素は少ないと考える。</p> <p>しかるに、受託者は、目標の販売数として、既存製品の販売実績に比べ過大な数量(●●年間で●●個で、年平均で既存製品の●●倍以上)を挙げており、目標どおりの納付の達成は相当にハードルが高く、努力を要する。</p>

(注)総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。